

国際ロータリー第2730地区

高鍋ロータリークラブ 会報



会長 野添 勝久
副会長 中武 功見
幹事 石田 喜克
例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
例会場 ホテル泉屋 2F
事務所 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋1368-4
ホテル泉屋内 TEL・FAX 0983-21-1636

第2226回 令和4年10月20日プログラム

- | | |
|----------------------|----------|
| 1. 点 鐘 | 7. BOX披露 |
| 2. ロータリーソング
我らの生業 | 8. 委員会報告 |
| 3. ビジター・ゲスト紹介 | 9. 会員卓話 |
| 4. 会長の時間 | 10. 点 鐘 |
| 5. 幹事報告 | 11. |
| 6. 出席報告 | |

高鍋ロータリークラブテーマ

『無理なく、居心地の良い楽しいクラブに』

第2730地区ガバナー 山ノ内 文治

中部グループガバナー補佐 藤本 範行

RI会長テーマ 『想像してください。』

私たちがベストを尽くせる世界を。』

第2730地区テーマ 『知力を高め 未来に繋げ
多様性あるロータリークラブの実現に』

10月の月間テーマ

経済と地域社会の発展月間・米山月間

本日の例会案内

- *会員卓話 岩村文夫君・平山英俊君
- *100万ドルランチBOX

次週例会案内; 10月27日 (第2227回)

- *夜間例会 点鐘=18:30
- *親睦会&新入会員歓迎会 <花いちもんめ>

第2225回 例会内容 (10/13)

□会長の時間

会長 野添 勝久 君

皆さんこんにちは。
めっきり朝夕寒くなってきました。日中は仕事やゴルフをするのには最適です。

今日10月13日は『引っ越しの日』となっています。

1668年、明治天皇が京都御所から江戸城(現在の皇居)に入城されたことに因み「引っ越し専門共同組合連合

会」が記念日に制定しています。又、『サツマイモの日』これはちょっと無理な語呂合わせです。サツマイモが栗(9里)より(4里)旨いことから9+4=13日だそうです。

毎年今頃になると私は良く空を見上げています。10月10日前後はタカ渡りと言って、主に東北地方で夏繁殖したサシバが九州(特に佐田岬)から奄美大島や沖縄を経て、越冬地のフィリピンやインドネシアの島々に帰っていきます。ここ宮崎でも頻繁に目撃できます。島伝いに何千キロの旅をするのですが、陸上で発生した上昇気流を捉えて空高く旋回上昇して次の島まで羽ばたかずに滑空をする、鷹の仲間の得意とする体力を消耗しない飛び



方です。サシバとは不思議な名前ですがその由来は喉の下のところに見える羽が弓矢の羽根を刺しているように見えるからだそうです。羽を広げて飛んでいる時はカラスより大きく見えて、捕まえてみると(捕まえてはいけないのですが)とても小さく、鳩を一回り大きくした位です。鳴き声がとてもきれいで秋の始まりを連想させます。悪いことですが30年以上前の話で、50センチほどの棒切れ2本に鳥もちを巻き付け、40センチ程間隔を空けて間にテグスを張り、真ん中にカエルをぶら下げて田んぼに刺して朝見に行ったら羽広げてくっついていました。彼等は羽を広げたまま獲物に襲い掛かる習性があります。再度仕掛けたら翌日もかかっている、怖くなって即日罨は外しました。まじかに見るサシバはその食性(主にカエルやヘビ)も相まって私にはあまり魅力を感じず又保護鳥捕獲の違反をしているので2羽とも直ぐに放鳥しました。この時期はサシバだけでなく、ハチクマ(主にスズメバチの巣を襲い蜂の子を主食とする鷹で見た目はクマタカに似ている)等今の時期、空を注意していると頻繁に見ることができます。冬になればチョウゲンボウ(ハヤブサ目)が良く渡りで飛来します。よく、大きなタカのような鳥が飛んでいる、あれは何?と聞かれますが殆どはトンビです。開翼長は1.5m位で鷹との違いは尾翼で識別出来ます。タカ類が飛ぶ時の尾羽は扇形でトンビは矢羽根のようにへこんでいます。トンビも猛禽類ですが食性はカエルや海岸の死んだ魚等を主食とするので足が鷹とは全く違います。

秋空をそんな思いで見てください。面白いですし、遠くを眺めると目の訓練に無なりますよ！本日は、タカ渡りから猛禽類の話で会長の時間を終わります。本日もロータリーをお楽しみください。

□幹事報告

幹事 石田 喜克 君

*パスト会長会のお知らせ

2022年10月20日(木)
18:00~
ホテル泉屋2階



□BOX 披露

親睦活動委員 岡部 由紀子 君

<ニコニコ・財団・米山BOX>

【野添勝久君】昨日は会長幹事会で特別な酒をたらふく飲んですっかり酔ってしまい石田幹事に宮崎駅まで送ってもらったのも忘れてしまいました。本日は井上君の卓話楽しみです。



【長谷川修身君】誕生日祝いのお返しとして。又昨日のオリックスバファローズの山本投手には感動しました。日本一になるように応援しています。

【岩切一浩君】娘のバレーボールチームがホットモット杯宮崎市予選で優勝しました。県大会も優勝して全国大会へ行ければ最高です。是非応援してください。



社会奉仕委員長 酒井君

赤い羽根共同募金街頭募金日程について

日時 12月1日(木)
16時~17時
場所 コープ宮崎高鍋店

□出席報告

出席副委員長 向山 健一 君

出席状況 (10/13)

会員数	42名
出席会員数	33名
ホーム出席率	80.49%
修正出席率	82.93%



□会員卓話

井上 博功 君

<我が職業とロータリーの精神>

「頼まれごととは、試されごと」

岡島さんから「我が職業とロータリーの精神」について卓話を頼まれました。これはすごく重い内容で、「職業奉仕の精神」そんな話は私にはできません。これはロータリーの中でも一番難しい話で、いまだに職業奉仕は分かっていません。ロータリーが始まって120年たっても、この話は難しいと思います。それは、話す人によって、話す内容によって、ロータリーのイメージを悪くする可能性があるからです。しかし、岡島さんから頼まれて「できません」とも言えないので、「頼まれごととは、試されごと」と思い、引き受けることにしました。自分が職業奉仕の精神を語るなんてまだまだ100年早いと思っているくらいで、何を話そうかと悩みましたが、これまでに私がロータリーにどのような影響を受けて現在の自分があるのかを話すことで、理解していただければと思います。



「こんなにまじめに生きている人たちが居るのだ」

私がロータリークラブに入会したのは平成5年、42歳の時でした。子供が2歳、4歳、5歳の3人で家庭の中も子育てで大変な時期でした。今年で入会して29年になります。入会当時のロータリークラブの印象は今でも鮮明に覚えています。第一印象は、「世の中にこんなにまじめに生きている人たちの集まりがあるんだ」と思ったことです。何故そう思ったのか、それはほとんどの人が私より年上で、それとかなりの年配の人たちばかりの集まりで、「奉仕の話」や「世界平和」の話などをまじめに話される姿に、感激というより、違和感を覚えたくらいでした。私は42歳で自分の会社のことや仕事のことしか考えていなかった時で、奉仕や世界平和などについて考える余裕もなかった時期でした。それまでは、同世代のサークルや会合や業界の組合などは加入していましたが、仕事の関係で加入することしか知らなかったため、私にとってロータリークラブは本当にカルチャーショックでした。

「朱に交われば赤くなる」

入会当時は何もわからないので先輩たちの言うとおりに動いていましたが、時間の経過とともに、少しずつ先輩たちや倶楽部の空気に感化され、影響されていったのだと思います。そして29年。子供の教育でも義務教育から大学まで通算16年なのに、ロータリーでは29年。子供の教育は環境に大きく左右されます。それは学校によって左右されやすいということです。スポーツの盛んな学校に入ればスポーツで優秀な子供が育つ。勉強に力を入れる学校では勉強で優秀な子が育つ。まさに「朱に交われば赤くなる」です。もしロータリークラブがいい加減な人の

集まりだったらどうでしょう。私は成長していません。いい加減な人間になっていたでしょう。まじめな人の集まりでもルールを守らずに活動していたらいい加減な集まりになり、いい加減な人間になると思います。ルールを守って活動するからうまくいく。ルールを守るまじめな大人のクラブなのです。ロータリーは120年間続く確かなルールがあるから世界で活動が続いていると思います。

「私にとってロータリークラブはどのような位置づけか」 「ロータリーは、一つの人生哲学である」

それでは私にとってロータリーはどんな位置づけになっているかといえば、

- ・ロータリー活動を通じて、まじめな人の人間模様がみられる。
- ・ロータリーは卒業のない社会大学だ。年会費が授業料
- ・全国的に大なり小なり社会で活躍している人が多い。
- ・自分次第で全国的に友達がつくれる。

世界への奉仕や世界平和を願って活動しているロータリー会員として恥ずかしいことはしていないかとロータリーの例会に出席して、自分を見つめなおすことです。今でも、精神的には毎日ロータリーの会員として恥ずかしいことばかりなのです。私たちは職業人、経営者の集まりであります。経営は人がすることです。経営に大きく影響するのは経営者の人間性であり、社会性であると思います。その人間を育てる場が私はロータリークラブであると思います。

「ロータリーの標語と決議 23-34」

こんな風に考えるようになったのは、やはり「ロータリーの標語と決議 23-34」です。ロータリーの標語を作ったアーサーフレデリックシェルドンは、悪徳と信用不安が横行し、消費者は自分で自分を守るしかなかった当時であっても、公明正大に経営している商店や会社が大成功している事実を知って、その理由を探求し、「常に他人の立場を考えて、他人のためになるように尽くすサービス（奉仕）を実践しているものが成功を収める」ことを発見し、そのことをロータリークラブに伝えることで、「**職業は社会に奉仕する手段である**」とロータリアンを納得させて、哲学とされるようになりました。ロータリーは、基本的に人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は「超我の奉仕」の哲学であり、「**最も奉仕するもの、最も多く報いられる**」という実践理論に基づくものである。

「最も多く奉仕するもの、最も多くむくいられる」

職業奉仕の根本はロータリー標語にあると思います。

「最も奉仕するもの最も多くむくいられる」

自分の会社に置き換えますと、お客様に満足して喜んでもらえるかどうか。まず奉仕、喜んでもらえたらお金は後からついてくる。まさにロータリーの哲学であり、経営の哲学だと思います。

ロータリーの哲学であり、ロータリーの標語が 私にどんな影響を与えたか。

私は性格上負けず嫌いです。いつも人にできてなぜ自分にできないか、他社にできてなぜ我が社にできないか。と思いながら仕事をやってきました。仕事でつまずくたびに、何が足りないのか。それは何だろうと悩むたびに「**最も多く奉仕するもの、最も多くむくいられる**」を思い出します。目先のことにとらわれて、つい忘れてしまうのです。いつの間にか、仕事において、弊社に対するお客様の不満が私のストレスになっていきました。そのストレスを解消することは、お客様を満足させるように対処することです。それがお客様へのサービスにつながっていきました。その後、私の仕事は私のストレス解消だ思うようになっていきました。一つストレスを解消すれば、一つサービスが増える。そのために設備投資などのお金もかかりますが、ストレス解消はお金には代えられません。そう思うようになって大きなストレスはなくなっていきました。今思い返せば、自分のストレス解消が、お客様の喜びに代わる。一石二鳥です。そんなうれしいことはありません。そんなことを繰り返しながら今日までやってきました。「お客様がいるから会社が成り立っている。社員がいるからお客様にサービスができる」

このことをいつも肝に銘じています。

「自分の生きざまは、常に人から見られている」

「ロータリークラブは社会的信用がある」

私はロータリークラブに入会して、いろんな場面で声をかけられるようになりました。まず、法人会の会長、前会長の日田さんが病気になられて、後任の声がかかった。やる気はなかったが、最期を看取って引き受けざるを得なかった。今思えば本当にありがたいことです。そして、平成16年ごろ、高鍋商工会議所の黒岩会頭の時「お前もそろそろ商工会議所活動にも参加せんといかんやろ」と声を掛けられ、会議所の議員に推薦されました。2,3年たっていきなり副会頭に推薦されて黒木会頭の時に2期6年、増田会頭の時に2期6年副会頭を経て、第13代会頭に推薦されて1期3年経過したところです。これもロータリークラブの会員だったから選ばれたのだといつも自分に言い聞かせています。さらに、高鍋町観光協会の理事長だった黒木敏之君が高鍋町長選に出馬することになり、観光協会の理事長を引き受けることになりました。この事も心のどこかにロータリークラブの会員という誇りと自信があったように思います。

「最も多く奉仕するもの、最も多くむくいられる」

人間目先のことに必死で、日々様々な出来事に追われがちで大事なことを忘れがちですが、ロータリークラブで仲間の顔を見たり、話したりして、大事なことを思い出させてくれます。それがロータリー哲学、「**最も多く奉仕するもの最も多くむくいられる**」です。ロータリークラブは卒業のない社会大学です。卒業は退会しかありません。今後は「退会」を、「卒業」にするといいと思います。そこで昨今思うことは、今後は卒業を作ってもいいのではと思うこともあります。みんなで考えましょう。